

ESD推進のための公民館 - CLC国際会議

住民主体で地域課題解決に取り組む、
飯田型公民館の組織と活動について
～飯田ムトス大学事業の取組から～

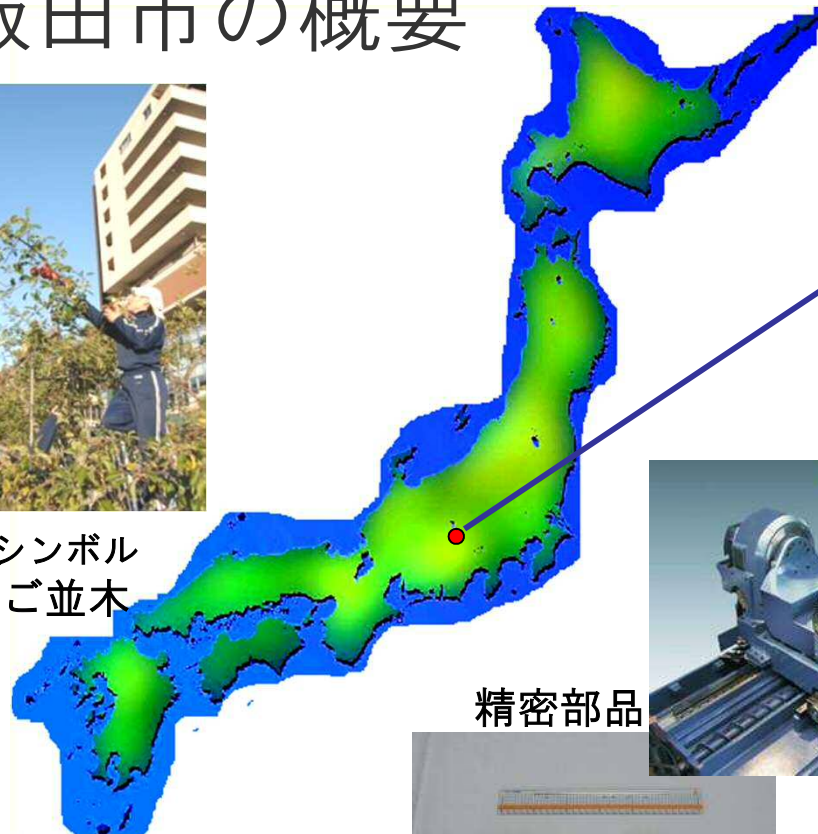
長野県飯田市公民館

飯田市の概要

多様な自然・風土・文化



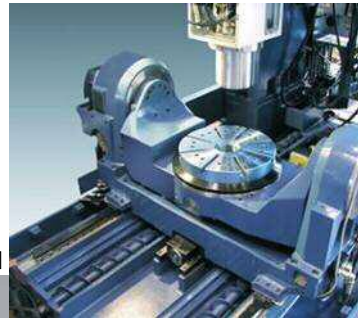
街のシンボル
りんご並木



○面積	658.73km ²
○人口 (H26. 6. 30)	102,947人
○世帯数 (H26. 6. 30)	38,079世帯
○標高 (市役所)	499.02m
○日照時間 (2010年)	1,946.7時間
○森林面積 (割合)	全市域の84.6%

伝統産業

精密部品



多様な主体によるまちづくり

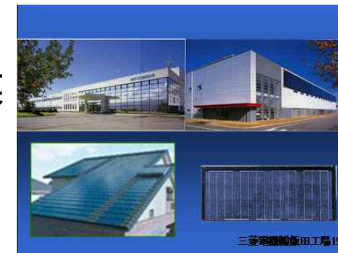


人形劇のまち

多様なものづくりの集積地



環境産業



市田柿

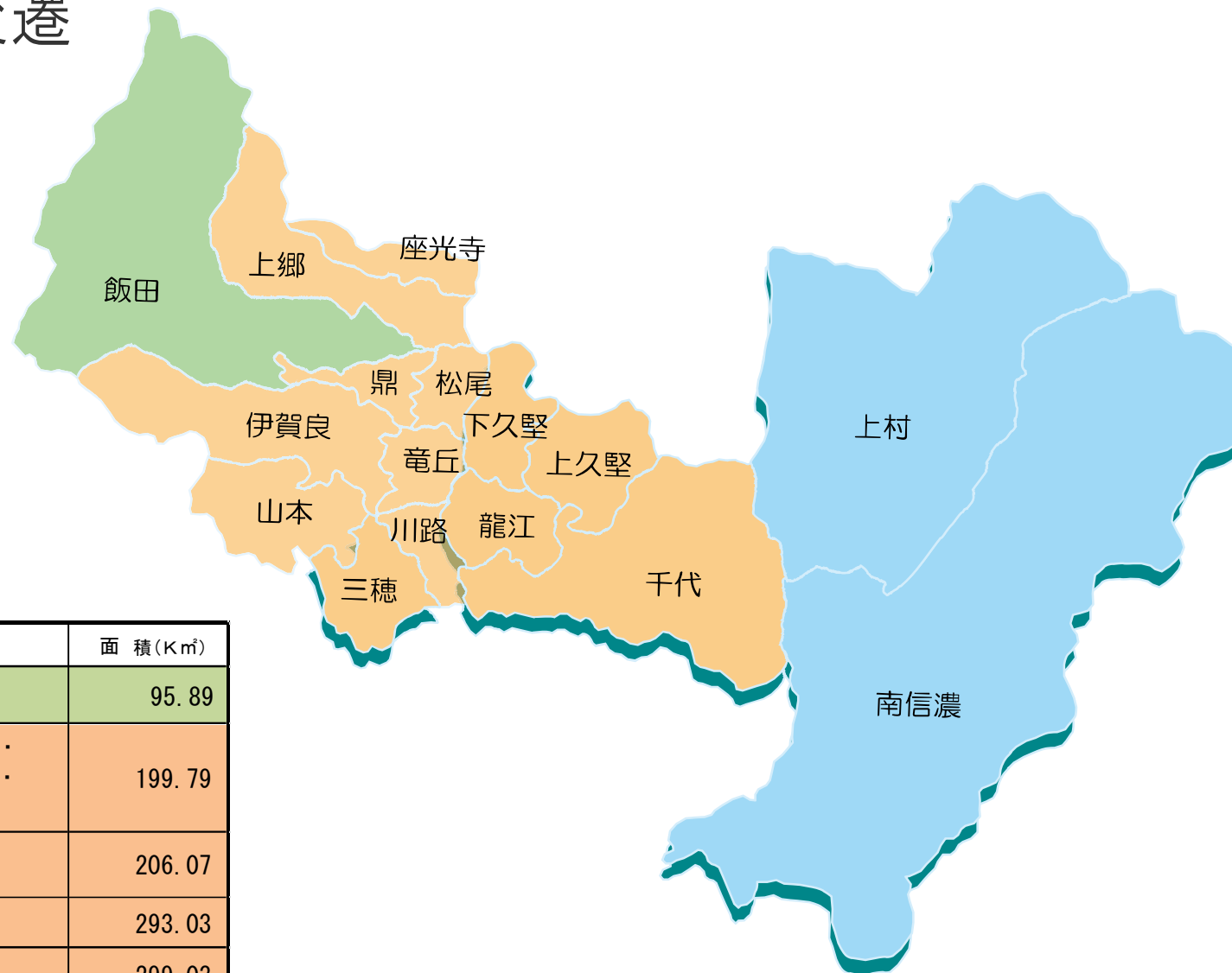
小さな世界都市飯田 いいだ人形劇フェスタ



今年36年目を迎えた日本最大
の人形劇の祭典。
今年度は、国内外から370を超
える人形劇団が飯田に集った。
地域約138会場480公演の地
域平面の祭典。
2千5百人を越えるボランティア
市民がこの祭典を支える。



飯田市域の変遷



年	合併地域	面積(Km ²)
S12	飯田町・上飯田町	95.89
S31	飯田市・座光寺村・松尾村・竜丘村・三穂村・伊賀良村・山本村・下久堅村	199.79
S36	川路村	206.07
S39	龍江村・千代村・上久堅村	293.03
S59	鼎町	299.03
H5	上郷町	325.35
H17	上村・南信濃村	658.76

合併の都度旧町村単位に独立公民館(地区公民館)を配置
 旧飯田地区はS43に1館制から5館に分離

飯田市公民館の概要

～ 飯田市の公民館活動の基本理念「4つの運営原則」 ～（昭和48年制定）

地域中心の原則

まちづくりを考えると、日常生活に身近な地域から出発することが大切である。地域ごとに設置された公民館は常に地域を中心としてとらえた学びの場であるべきである。

並立配置の原則

地域の規模や特徴は異なっても、公民館は20地区に対等に配置され、それぞれの活動が等しく尊重されるということ。この原則は地域中心の原則を保証するものである。

住民参画の原則

公民館を設置し、そこに職員を配置することは行政の役割であるが、公民館の事業の企画運営は、地域住民によって組織された専門委員会や運営委員会体制、より身近な住民の単位である分館活動など、それぞれの事業が自発的な住民の意思に基づいて行われることが大切である。このような組織や活動は、飯田市の公民館の原動力になっている。

機関自立の原則

教育行政が一般行政から一定の独立性、中立性を保っていることに鑑み、公民館が地域の社会教育機関として住民の主体的な学習活動を保証することは大切である。その意味で公民館が自立した体制を持っていることは重要であるという考え方。

飯田市公民館の概要

～ 飯田市の公民館の組織体制 ～

公民館運営審議会（14人）

※市全体で飯田市公民館のみに設置

飯田市公民館 20館の連絡調整や全市的事業を展開

公民館長（1人）※非常勤特別職（飯田市公民館館長会長・地区公民館長兼任）

副館長（1人）※課長職

【学 学習支援係長（1人）

支 市公主事（1人）

援 社会教育コーディネーター（2人）※臨時職員

【管 管理係長（1人）

理 管理係（1人）※臨時

係

市単位



行政職員を各地区配置

地区公民館【20館】

住民が主体となり行政と二人三脚で活動を展開

地区公民館長（1人）※非常勤特別職（各地区地域協議会より推薦・教育委員会任命）

副館長補佐（1人）※課長補佐又は係長職（自治振興センター所長）

公民館主事（1人）

管理係（1人）※臨時職員（公民館の規模等により配置）

専門委員会

（文化・体育・広報・育成など）
地区からの委員で構成

地区単位

公民館委員として本館で活動



地区分館（自治公民館）【103館】

生活に最も密着した日々の活動を展開

分館長・副分館長・分館主事・文化委員・体育委員・広報委員・育成委員 ※全て地区住民

区単位

飯田市公民館の概要

～ 各地区専門委員会について ～

地区公民館には、飯田市独自の制度として住民主体の公民館活動を推進するための専門委員会が設置されています。

専門委員会の委員は、町内あるいは分館からの選出や地区内全域から適任者などが推薦され、公民館長の委嘱によって構成され、住民自らが様々な事業の企画立案・実施を担っています。

市内20地区でおよそ900名の専門委員の皆さんが活躍されています。

文化委員会

地域の文化や歴史を学ぶことなどを目的に、主に文化祭、芸能発表会、地域再発見事業、いいだ人形劇フェスタ地区公演の運営などを行います。

体育委員会

住民の健康づくりや交流を目的に、地区運動会、各種スポーツ大会などを運営しています。

広報委員会

住民自らが、地域の課題などを住民の視点で捉え、自ら公民館報を編集、発刊しています。

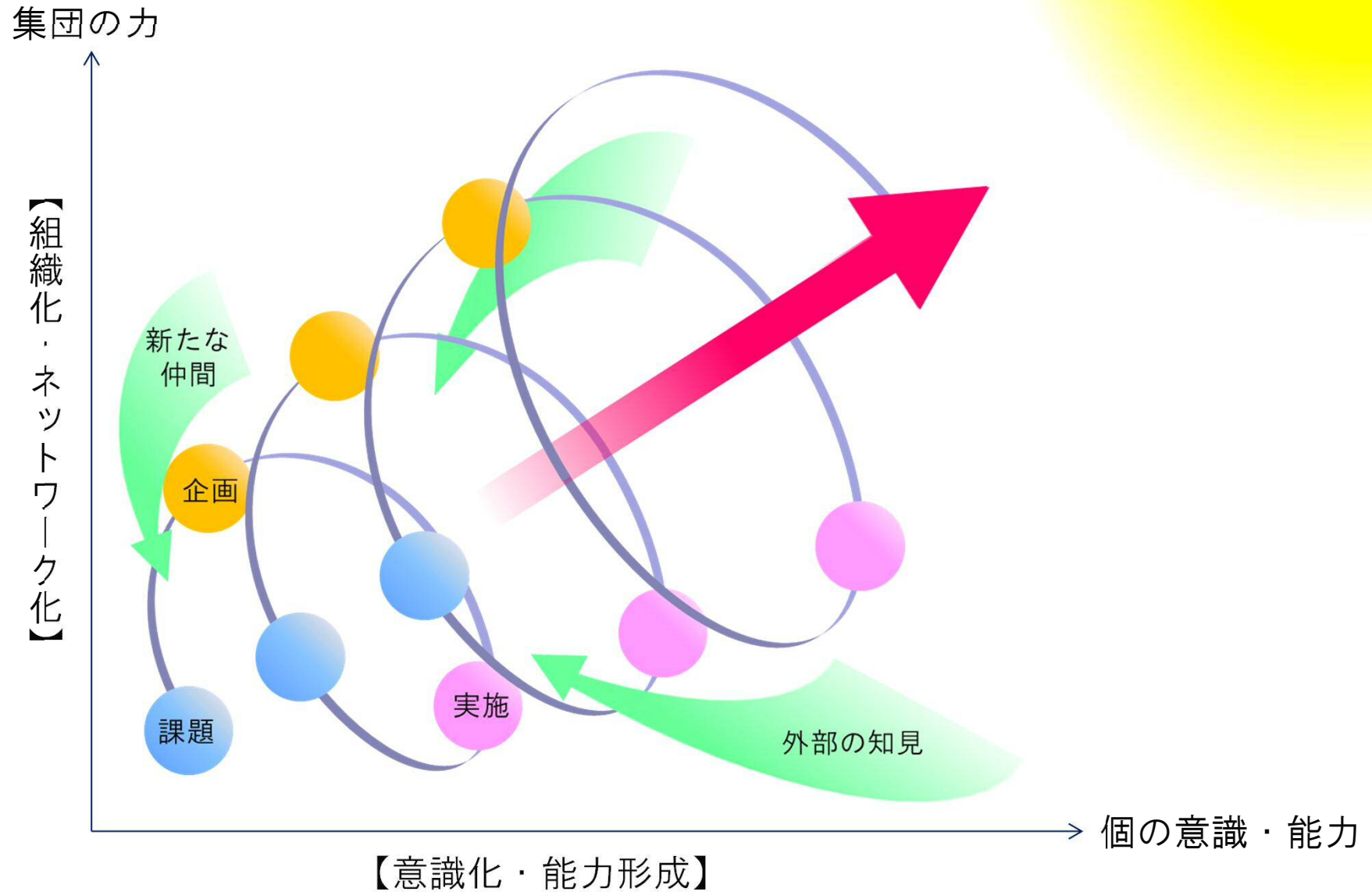
育成委員会

地域の子どもたちの健全な育成を目的に、さまざまな体験活動などを行っています。

飯田型公民館の特徴

「地域の自治の力を育む仕組み」

持続可能な地域



飯田ムトス大学事業



飯田市の現状と課題

現 状

- 地域の変貌 ——— リニア中央新幹線ルート・駅位置の決定や三遠南信自動車道全線開通という二大交通インフラ整備
- 人口減少・少子高齢化 ——— 合併による中山間地域の生産人口減少・超高齢社会の到来
- 若者世代の流出 ——— 4年生大学進学のための都市への流出
中山間地域から市街地への流出

課 題

- 地域意識の希薄化・コミュニティの弱体化

めざすもの

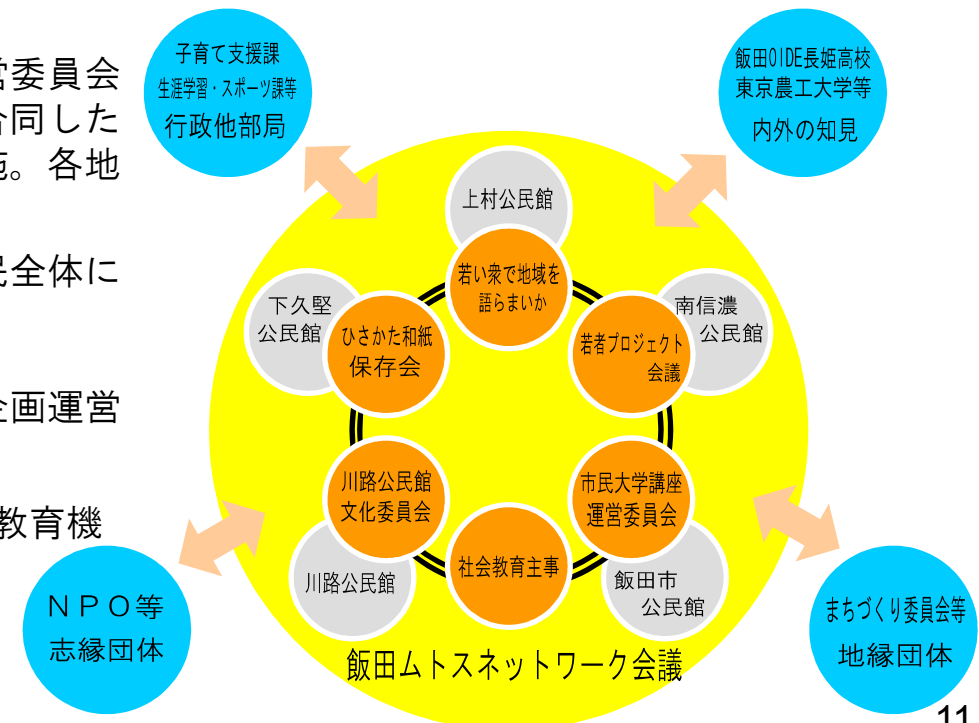
- 地域を担う次世代の育成 = 住民自治による持続可能な地域経営

ムトス大学事業の概要

1 地区ごとに取り組む地域課題・生活課題を結びつけ、他地区との活動と交流を通して、**住民主体の学習と交流に基づく人材サイクルの構築**を目指す。

2 新たな事業展開ではなく、**企画運営から住民主体の既存事業のブラッシュアップ**を図る。

- ①地区ごとに取り組む地域課題・生活課題をテーマとした重点事業を、新たな枠組みとして複数地区をネットワークした事業展開
- ②重点事業は地域ごとに住民主体の専門委員会・運営委員会等による企画運営体制で取り組むが、その委員会が合同した連絡会（飯田ムトス大学ネットワーク会議）の実施。各地域のリーダー交流会
- ③地域を越え、相互の事業へ参加しあうなど広く市民全体に開かれた講座とする
- ④事業参加者の中から実行委員をピックアップし、企画運営に関わる人材養成の機能として位置付け
- ⑤NPOなどの志縁団体や地縁団体、行政他部局、高等教育機関等内外の知見と連携
- ⑥同じ課題を持つ公民館による合同事業の実施



ムトス大学事業の実施内容

1. 推進会議
2. 次代を担う若者を中心とした中山間地域における地域課題学習
(上村・南信濃公民館)
3. 地域と小・中・高が連携した、和紙の保存伝承活動を通じた地域課題学習
(下久堅公民館)
4. 地域課題を核とした、子育て世代と地域をつなげるための連続的地域課題学習
(川路公民館)
5. 地域課題解決に向けた諸課題の成果発表

「ムトス」とは

- ・ 広辞苑の最末尾の言葉「んとす」を引用したもの。「～しようとする」という意味が込められており、行動への意志や意欲を表す言葉。
- ・ 飯田市では、昭和57年に作成した「10万都市構想」において、理想とする都市像の実現に向けての行動理念・合言葉として「ムトス」を使用した。今日では、行政だけではなく市民もまちづくりの合言葉として使用している。

上村・南信濃地域の特徴

平成17年に飯田市に合併。古くから”遠山郷”と呼ばれる。飯田市街地から約1時間の場所に位置し、林野率9割。霜月祭（国重要無形文化財）など伝統文化が脈々と受け継がれている。

人口推移

平成17年10月1日現在および平成25年10月1日現在

	H17-H25 上村	H17-H25 南信濃
人口	702人→492人 ▲210人(▲30%)	2,178人→1,695人 ▲483人(▲22%)
世帯数	286戸→216戸	926戸→806戸
高齢化率	44.9%→49.4%	46.2%→54.0%



現 状

人口減少・少子高齢化に歯止めがかからない

住 民



課題として捉えている。でも、
何をしたいか（対策）わからない。

行 政



補助金・支援金

様々な若者定住促進事業を展開するも
なかなか結果に結びつかない。

上村・南信濃地区の取り組み経過

平成23年度～24年度

若者が住み続けられる地域づくりに向けた動きとして、2地区それぞれの取り組みがスタート

若い衆で地域を語らまいか！（上村）

- 地区内に住む20代～40代を対象に、地域をざっくばらんに話し合える場を提供。
- 参加者の負担感を抑えるため、プロジェクト、団体体制はとらず、自由参加型。

南信濃若者プロジェクト会議（南信濃）

- 南信濃まちづくり委員会専門委員会として平成24年2月に設置。
- メンバーは各区から男女各1名と地域関連団体により構成されている。

平成25年度

ムトス大学ネットワークにより、共通の課題を持2地区の取り組みを融合

平成25年度（通年）

2地区合同会議を実施（3回）

- 東京農工大学講師によるコーディネート
- ・地元学の講義
 - ・地域の振り返り視点の示唆
 - ・アンケート調査へのアドバイス



誰かがやってくれる...
あれがほしい、あれがない
→ないものねだり



自分たちで、動き、考える！
地域資源（人・モノ）光をあてる。
→あるもの探し

2 地区合同会議で得た視点

地域を残していくためにどの様に行動するか？

⇒地域の良さに気づいたり、
一人ひとりが地域のことをもっと考えていくことが大切。



住民の意識を知りたい！

住民アンケート調査実施

- ・ 地域住民が世代毎どの様に地域のことを考えているのかを調査し、今後の取り組みにつなげる材料を集める。
- ・ 「地域にあるもの」に光をあてる内容を盛り込む

対象：小学生以上のすべての住民

1,022世帯 2,127人（上村：216世帯 478人）
（南信濃：806世帯1,649人）

住民アンケートの設問内容

<p>2 地区 共通項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ この地域の好きなもの ・ 地域で残していきたいもの（宝探し） ・ 地域や自らができること ・ 既存定住事業についての意見＋新たなアイデアの募集 ・ 地域での満足度 ・ この先も地域に住み続けたいか
<p>独自項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上村中学校の跡利用（上村） ・ 買い物環境について（上村） ・ 子育てのしやすい環境づくり（南信濃）



- ・ 「あるものに光をあてる」内容を盛り込みたい。
- ・ この地域に残していきたいものを聞き取ろう！
- ・ 暮らしの満足度、住み続けたいかどうか。

より多くの世代の考えを聞きたい（材料集め）＋「きっかけ」づくり

住民アンケート結果から

回収実績

- ・ 発送数 2,127件（上村478/南信濃1,649）
- ・ 回収数 1,346件（上村278/南信濃1,068）
- ・ 回収率 63.28%（上村58.15%/南信濃64.76%）

地域への愛着・満足度

- | | |
|-----------------------|-----|
| ■ 住み続けたい・一端離れるが戻ってきたい | 65% |
| ■ とても満足・やや満足 | 61% |

主な意見

- ・住み続けざるを得ない。（高齢者など）
- ・ここが好きだから。自分の居場所がある。
- ・子どもの進学などで住み続けるか悩んでいる。

今後の展開

- ① 住民アンケートの分析と、的を絞った再調査
- ② 好きなところ＝魅力を高めるための取り組み



関わった若者の変化・成長

参加当初・・・

- ・ 市で〇〇をやってほしい。
- ・ 今の生活に対する不満。他者まかせな発言。



飯田ムトス大学事業を通して・・・

【学習の積み重ね】

- 学習（地元学）→ 地域の見つめなおし
- 住民アンケート→ 地域の現状把握
地域の声のポンプアップ

【交流と議論】

- 2地区での合同会議
→同じ地域課題に取り組むものの意識の共有化。他者から見る自分の地域の見つめなおし

○発言や意識の変化

- ・ 自分たちも頑張るから行政のサポートを！
- ・ もっと地域について考えてほしい。
- ・ 多くの仲間が増えてほしい！



地域＝「他人」→地域＝「自分」

他人まかせではなく、
自ら考え行動することへの変化



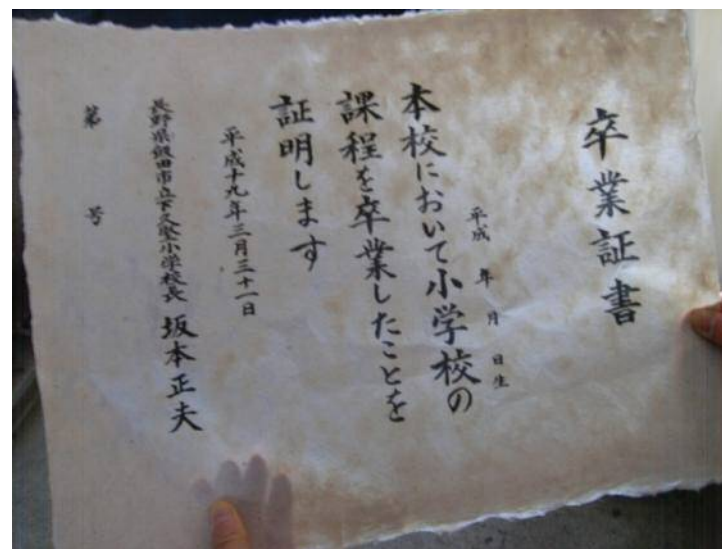
【市長より】

若者がこれだけ地域を見ている地域は他にはない。今後につなげる心意気を感じる。地域でできない事は行政で補い、地域と一緒に今後地域づくりに取り組んでいきたい。

2地区それぞれの市政懇談会にて、若者が地域に対する想いを行政・地域へ伝えることができた。

地域の伝統「ひさかた和紙」

かつて地域の一大産業であった和紙が洋紙の普及とともに衰退した。後世に伝統産業を残すべく和紙保存会を中心に保存継承を行ってきた。



課 題

地域の伝統である「ひさかた和紙」の保存・継承が困難になってきている

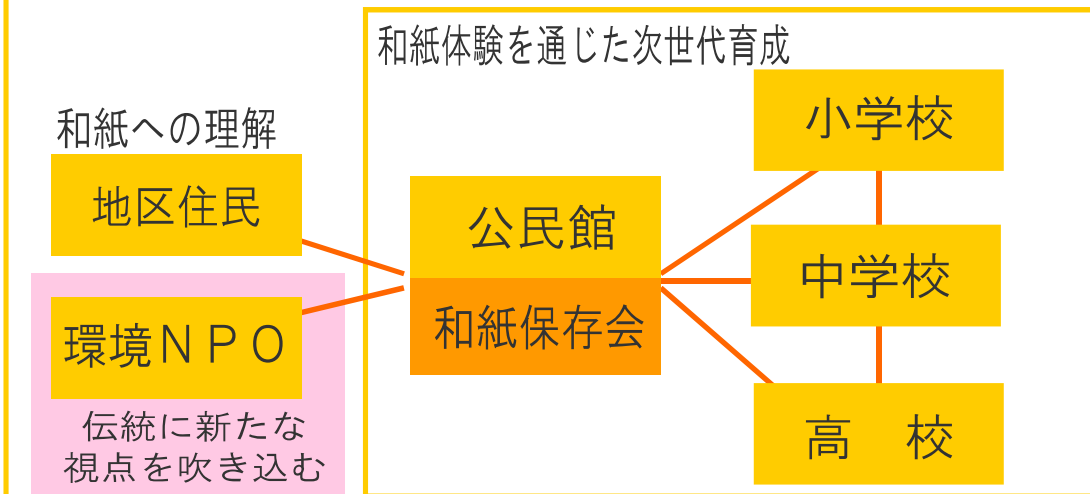
- ・ 和紙保存会が活動を始めて15年が経過し、担い手が高齢化
- ・ 和紙に対する地域の認識が薄い
- ・ 次世代へ継承していく活動がない

取り組みの内容

- 小・中・高校生に向けた体験活動・学習活動の実施
- 地域住民に向けた、ひさかた和紙学習会の実施
- 月1回の保存会定例会の開催と先進地視察の実施



波及効果による新たな連携



ふるさと意識の醸成
後継者の育成

「地域の伝統」の再認識
商品開発への取り組み

小・中・高向け体験活動・学習活動

和紙保存会による地元小学生・中学生・高校生への和紙文化の伝承。

成 果

小学生対象

- ・ 原材料の栽培
- ・ 材料への加工
- ・ 紙漉き など



全年生が授業（ふるさと学習）の一環で継続的に実施

中学生対象

- ・ 地区住民へインタビュー
- ・ 「ひさかた和紙検定」の考案
- ・ 高校生の実践（商品開発）を学ぶ



地域への発信
地区文化祭での展示発表

高校生対象

- ・ 保存会各種作業への参加
- ・ 歴史や価値の学習
- ・ 地区住民へインタビュー



和紙を活用した商品
開発と販売実践
（ながの東急販売）

小・中・高のつながりを一層深めた教育活動の展開

地区住民向け体験活動・学習活動

和紙学習会

【ひさかた和紙講座】

和紙の歴史学習、楮の収穫、
たくり作業、紙漉き



【環境NPOと連携した講座】

和紙の活用についての研究
ひさかた和紙とLED電球を
使ったランプシェード作り



成果

地域資源に対する住民の再認識

NPOの知見を活かした新商品の開発

地域住民組織の強化

共同作業

和紙生産の安定化を目指し、
原料となる楮畑の復旧作業



地域住民参加の促進

今後の展開

- 老朽化した道具を修繕し、持続できる環境を整える
- 和紙を身近に感じられる工作等の講座
- 域産域消を見直す、和紙の活用講座
- 原料となる楮づくりで農地保全、復旧。経済活動への展開。
- 良質な和紙をつくるための原料の見直しと共同作業「結い」による取組
- 栽培体制の強化と技術等のマニュアル化

川路地区の課題

都市への若者流出や地域離れ・世代間の交流の希薄化・コミュニティの希薄化

川路地区の取り組み経過

事業

ねらい

平成25年2月

第24回川路の明日を考える研究集会
「若者が帰ってくる地域を目指して」

若者について考える場

平成25年7月

第61回天龍峡夏期大学
若者の参加を狙ったテーマ設定や仕組みづくり

若者が地域に出るきっかけ

平成26年2月

第25回川路の明日を考える研究集会
「子どもの育ちに必要なことを考えよう」

若者と一緒に考える場

平成26年6月

川路通学合宿

川路小学校5・6年生が4泊5日、地区内の公共施設に泊まり共同生活を送りながら小学校に通う事業

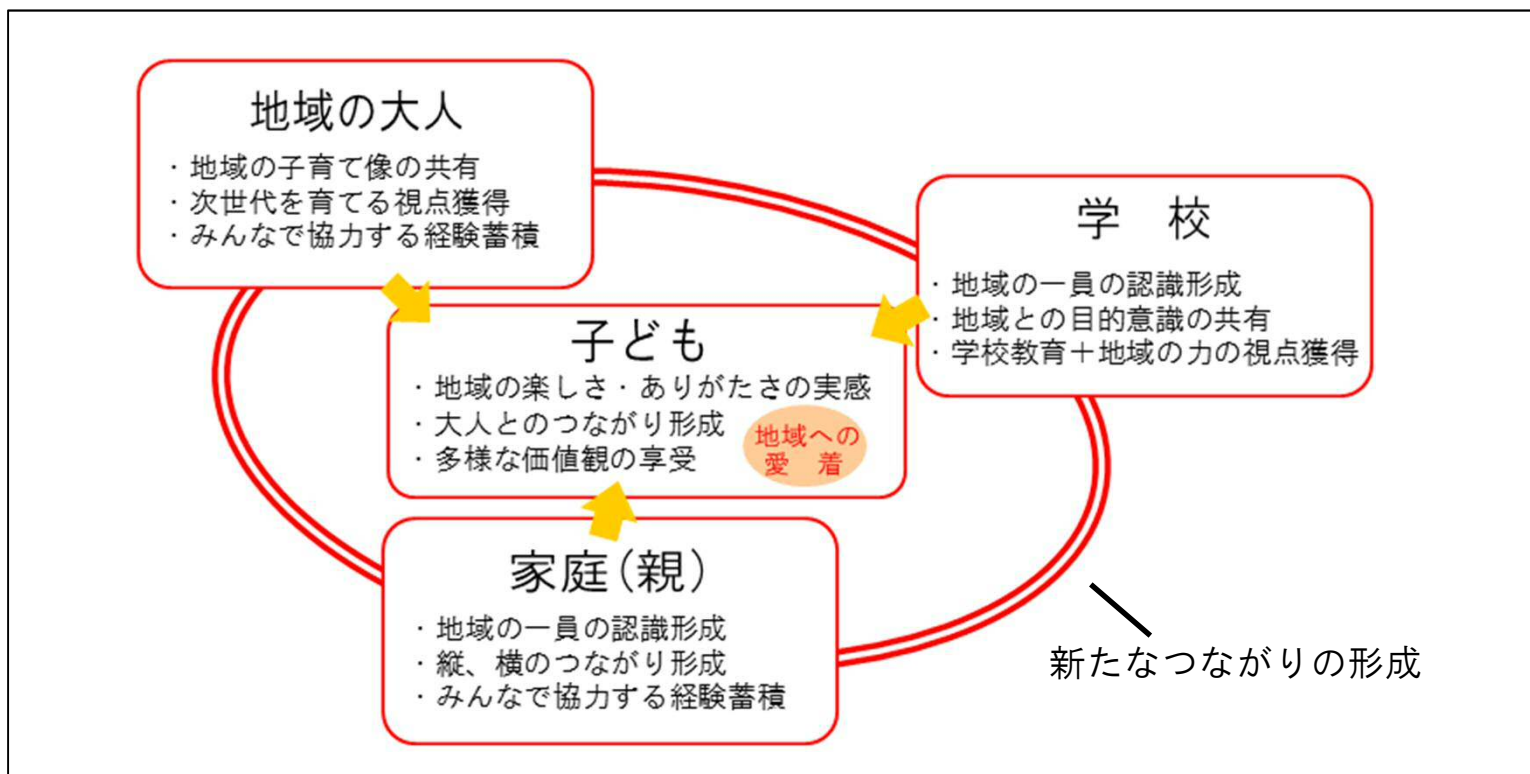
若者と協働する機会

新

川路通学合宿が目指すもの

「子ども」を核として地域住民・保護者・学校教員等が一堂に会し、ともに考え協働するプロセスを通して、世代・立場を越えたつながりを育み、地域内での人材サイクルの構築を図る。

期待する意識変化



川路通学合宿のポイント

ポイント① 「年齢・性別・立場を越えた多様な主体の連携」

- 通学合宿準備委員会メンバー構成

地 域：主任児童委員（前および現）、まちづくり委員、公民館役員、食改、地区有志

小学校：校長先生、教頭先生、5年生学級担任、6年生学級担任

保護者：PTA会長（前および現）、5年生学年代表、6年生学年代表

その他：志縁団体、保健師、館長、主事

ポイント② 「共通の課題・目的の共有」

- 子どもを取り巻く環境についての意見交換会（課題・目的共有の場）

- 「地域の子どもを地域で育てる」ための共通認識形成

ポイント③ 「各々の主体的な関わり」

- 全員参加の準備委員会（計6回）

- それぞれの役割分担

ポイント④ 「地域への波及」

- お互いの気づきを共有するアンケートや振り返りの会

- 「通学合宿だより」等による地域全体への情報発信

川路通学合宿の様子



大人も 子どもも
先生も 保護者も
地域でみんなが育つ



川路通学合宿 成果（意識の変化）

つながりの中でそれぞれの想いが共有され広がり、新たな地域の担い手を育む。

スタッフの声：

- こんなにたくさんの方が子どもたちのことを考えていたという川路の方々の思いや、若いお父さん、お母さん、子ども達が育っているなあという実感でした。
- 子どもたちを育てようと始めたことでしたが、私が勉強したことや、たくさん方と話をする中で作り上げた、考える時間が大事だったと思えたことは、今回の取り組みで得た宝だと思いました。
- 子どもも親も地域も、それぞれの成長を考えた合宿だったように思います。

保護者の声：

- 川路の中にはこんなすばらしい地域の方々がいらっしゃる事、色々な意見を聞く事で私自身がとても勉強になりました。今回のことで皆さんのパワーを実感しました。
- この地で生活する事は、地域の方々とつながりがあってこそ出来ることだなと改めて感じた。
- 自分の子育てがひと段落したら、是非地域の子ども達のために協力したいなあと思った。

先生の声：

- 「やればできる」川路の方々の底力、行動力、地育力の強さを感じた。
- 学校・地域・家庭が一堂に会して相談することが、地域で子どもを育てるという姿。

地域の声：

- 自分の子育ての頃、この通学合宿があればよかったと思う。
- 今年は何も関わる事がなかったけれど、通学合宿のことを見聞きしながら「きっと楽しい！」と感じていた。来年は自分がスタッフとして関わりたい。

今後も、この意識を引き続き地域内で共有していく事業展開を図っていく。

飯田ムトス大学事業がめざす姿

住民自治による持続可能な地域経営

人材サイクルの構築

内外の知見
他部局との連携

志縁団体・
地縁団体との連携

共創の場 = ムトス大学ネットワーク会議

*「事業構想力の研究」(清成忠男 著)より引用

川路の明日を考える研究集会

飯田市公民館大会

ひさかた和紙の保存伝承活動

南信濃若者プロジェクト会議

川路通学合宿

上村若い衆で地域を語らまいか

天龍峡夏期大学講座

飯田型公民館をフィリピンへ輸出

レガスピ (LEGAZPI) 市



フィリピンの中では最も貧しい地域の一つとされるビコール地方の中にあり、台風や活火山のマヨン山噴火の被害を頻繁に受ける地域
主たる産業は農業

フェーズ1 2005年3月～2008年2月

レガスピ市における地域自治強化を通じた貧困住民の生活基盤改善支援

1. 日本福祉大学が受託し、飯田市の住民有志が協力して実施した、JICA草の根技術協力事業（パートナーシップ型）：予算総額5000万円
2. プロ村及びエスタンザ村の集落を事業地とし、住民によるWSに基づき共有された飲料水の確保という地域課題を解決するために、浄水施設の確保からその後の管理に至るまで住民主体で進めることを通して住民自治の意識化と組織化を進めることを支援することが目的。
3. トップダウンで縦割りのレガスピ市行政の従来の仕組みを、行政・NGO・大学・住民リーダーによるテクニカルワーキンググループ（以下TWG）を組織し、統合的な体制で住民主体の取組を支えるために、参加型地域社会開発の理論や枠組みについて、構成員全体を対象とした現地研修や、コアメンバーを対象とした飯田訪問研修などを実施。
4. プロ村においては、上水道の付設に合わせて水道管理組織SIPMAが組織されるとともに、SIPMAは地域美化、共有財産の修繕、行政による道路計画の変更を求める陳情活動など、広く地域課題を解決するための住民自治活動に発展している。
5. エスタンザ村においては、水源開発には成功しなかったが、MGDPAという住民組織が設置され、レガスピ市の資金による保育所を兼ねた集会施設が建設され、共有資源の管理のための住民自治活動が展開されている。
6. 途上国の開発援助は、プロジェクト期間中のみ有効で、終了後は現場の動きが途絶える傾向が強いが、プロ村の住民自治組織SIPMAは終了後も住民組織の活動は拡大しており、他国の開発担当者による研修受け入れ地としても位置付けられている。



井戸



浄水施設



水道栓と
メーター



住民組織SIPMAの幹部と



SIPMAの陳情により
計画変更を勝ち取った湾岸道路

住民意識の変化

「地域の結束が強くなった。みんなで地域の課題を話し合い、何が必要かを考えるようになった。」

「以前は自分と家族のことだけを考えていたが、今は地域のことを考えるようになった。」

「私達が学んだのは、外部からの支援を待つのではなく、まず、自分たちで行動することが最も重要だということだということを理解した。」

「自分たちでできるんだということがわかった。」



フェーズ2 2013年7月から2016年6月

レガスピ市における公民館づくりを通じた住民参加型行政の展開

1. ふるさと南信州緑の基金が受託し、飯田市の住民有志と公民館が協力して実施した、JICA草の根技術協力事業(地域提案型)：予算総額3000万円
2. マヨン火山の噴火とレミン台風の被害により移住した人々が集住するタイサン村MMDA地区において、地域住民の集いの場としての公民館を建設し、公民館施設の管理と、公民館を活用した学習や交流事業を、住民自身の手で運営する経験を通して、住民自治の組織化を進め、住民自治能力の強化を図る。
3. 前回PJで設立したTWGを引き続き本PJを支える組織としての機能強化を図るために、参加型地域社会開発の理論や枠組みについて、構成員全体を対象とした現地研修や、コアメンバーを対象とした飯田訪問研修などを実施する。
4. タイサン村に続き他地域においても、地域課題を解決することを通じた住民自治組織の形成と、住民自治能力の強化に取り組む。候補地はフマポン村(エコツーリズムの拠点づくり)とバンケロハン村(スカベンジャーの新たな生計手段の確立)
5. 前回PJ地のプロ村と住民自治組織SIPMAの経験を、今回のPJ現場にも活かすために、研修地として活用する。
6. プロ村SIPMAに組織された住民層全体に水供給を実現することで、SIPMAによる住民自治活動の継続発展を担保するために、飯田地域のロータリークラブの協力の下、新たな井戸の掘索による水供給量の確保を目指す。

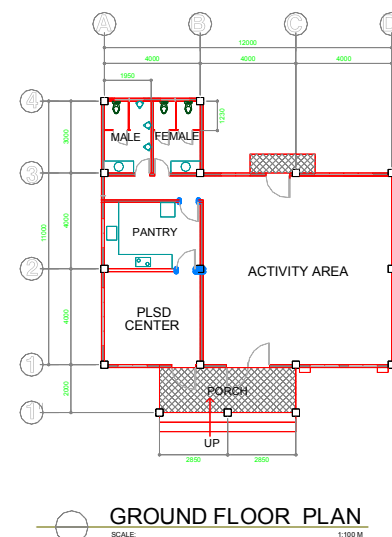
タイサン再定住区



11.4haの土地に
385世帯(約2000人)が生活



飯田メンバーを講師に迎えた
タイサン住民による公民館についての学習会



タイサン公民館平面図

フマポン村



村エコツアーリズム展開の拠点



マヨン火山が展望できる眺望



レガスピ地方特有のピリナッツ



村の現況についての聞き取り

バンケロハン村



ゴミ拾い以外の生計手段として試みられているキャッサバ畑



市有地に整備されたキャッサバ乾燥施設



『飯田の町に寄す』

岸田国士

飯田 美しき町

山近く水にのぞみ

空あかるく

風にほやかなる町

飯田 静かなる町

人みな言葉やわらかに

物音ちまたにたたず

肅然として

古城の如く 丘に立つ町

飯田 ゆたかなる町

財に貧富あれども

身に貴賤ありとおぼへず

一什一器かりそめになく

老若男女みなそれぞれの

詩と哲学とをもつ町

ご静聴ありがとうございました。